

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	上野 俊一
2-3	施策名	青少年の健全育成	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	市民(青少年とその保護者、地域住民)	①桜川市人口		人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値					41,278	40,483	39,692	38,905	36,712	
②青少年人口			人	見込値	6,270	6,250	6,200	6,180	6,130	
				実績値	6,692	6,450	6,233	5,843	5,237	
					見込値					
					実績値					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
心豊かにたくましく育っている。		①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合		%	目標値	47.0	48.0	50.0	51.0	53.0
					実績値	52.7	46.6	57.4	55.6	58.1
	②コミュニティスクール参加人数		人	目標値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	
				実績値	1,833	1,831	2,323	0	111	
	③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数		店舗	目標値	127	129	131	133	135	
				実績値	118	113	112	109	109	
					目標値					
					実績値					
					目標値					
					実績値					
成果指標設定の考え方	心豊かにたくましく育っている成果指標については、①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合をアンケートにて調査。また、土曜日の活用の一環として実施している地域教育力推進事業(②コミュニティスクール)参加者人数を把握。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数の把握。									
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の①桜川市人口は、毎年10月1日の常住人口。②青少年人口は、毎年4月1日の住民基本台帳による20歳未満の市民より求める。○①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、市民アンケートより求める。②コミュニティスクール参加人数は、各コミュニティスクール実績報告より求める。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数は、「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数実績報告より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、令和2年度は55.6%だったが、令和3年度は58.1%と2.5ポイントの増加となった。コミュニティスクールは、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、全て中止となったが、令和3年度は1校のみ開催することができ、参加者は111名だった。青少年の健全育成に協力する店の登録店舗数は、令和3年度は、岩瀬地区42店、大和地区14店舗、真壁地区53店舗、計109店舗で昨年度と同数である。成果が向上した要因としては、令和2年度はコロナ禍の影響でほとんど活動できなかったが、令和3年度は新しい生活様式で活動が徐々に再開されたことが考えられる。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は目標値を5.1ポイント上回った。コミュニティスクールについては、新型コロナウイルス感染拡大影響により、今年度も大半が中止となり、目標値を大きく下回った。青少年の健全育成に協力する店登録店舗数については、24店舗、目標値を下回っているが、減少の理由としてはコンビニ等の普及によりタバコの専売店等その他経営者の高齢化による理由より閉店していることが挙げられる。心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は目標値を上回っており、今後もより一層充実した体験機会の提供を図る。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
<p>青少年の健全育成において、貢献度の高かった事業は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育学級事業…家庭教育を充実させるために、社会教育主事や社会教育指導員が各学校で保護者を対象に講演、助言、指導を行い、保護者の家庭教育への理解が深まった。</li> <li>・訪問型家庭教育支援事業…子育てに関する悩みなどをもつ家庭を訪問し、保護者からの相談を受け、保護者への支援を通じて子どもの育ちを支える。相談者からは、家庭教育支援員に話を聞いてもらえて気が楽になったなどの意見をいただいた。</li> <li>・社会教育主事活動事業…社会教育の普及に寄与するため、社会教育主事を行政に設置する事が求められているが、令和3年度は、行政職員が社会教育主事講習を受講することにより、社会教育への専門的知識が深まり、社会教育主事の有資格者を増やすことにつながった。</li> </ul>	<p>青少年育成市民会議の運営においては、各支部の統合へ向け準備を進め、令和4年度からは市内で統一した青少年育成事業を推進していく。</p> <p>家庭教育の充実のため、幼児教育施設など、対象者を拡大して、多方へ向けての計画を実施していく。また、合同研修会の開催も視野に入れ、参加しやすい日時、場所、内容などを工夫して計画を進める。</p> <p>高校生会については、会員を増やし活動をより充実させ、高校生の自主的な活動による社会貢献の場や、魅力ある市づくり、郷土愛を育む活動などへの支援を図る。</p> <p>わくわくチャレンジ事業では、より多くの子どもたちが参加できるよう、教室の内容、開催方法、開催場所、募集方法、募集対象者など、工夫・改善を図り計画していく。またオンラインで学ぶことができる「おうちで『わくわくチャレンジ』」についても、コンテンツを追加するとともに、案内を積極的にいり利用者を増やしていく。</p> <p>新型コロナウイルスの影響によりこれまでと同じやり方では実施が難しい事業については引き続き様々な形の開催方法を検討しながら、各種事業を推進していく。</p>